

集交住宅



K05004 飯塚 幸弘

■ introduction

最も都市に魅力を感じることは、
例えば歩行することなどで得られる五感を通じた人間的スケールの都市体験が豊かであることだと考えている。
東京はモータリゼーションが発達し過ぎたばかりに、
それに対応した、巨大なファサードを有した建築群が溢れかえってしまった。
そして東京には今、そんなヒューマンスケールな都市体験ができる場が欠如しているように思える。

現在主流の都心開発手法の一つである、
上に向かって単純に積層されたスラブ群や、コンクリートの箱が本来目指すべき形なのか。

人間のスケールを逸脱した都市に、
人間の等身大で暮らすことができるヒューマンスケールな生活環境を挿入する。

そしてこの装置により、住人は改めて何かと交わることの楽しさを覚える。

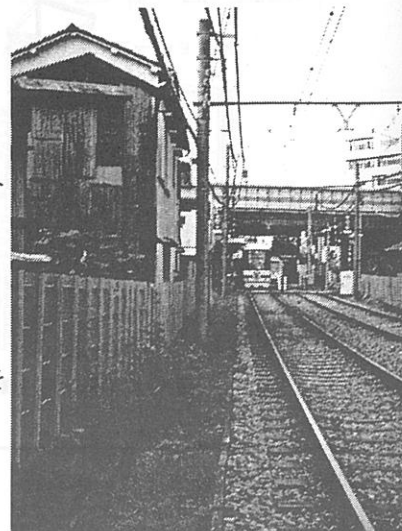
■ concept

今日の都市における、非現代的な居住空間を都市に落とし込むことで、
ヒューマンスケールな暮らし、様々なものが交わる暮らしを提案する。

■ program

低層戸建て住宅群を設計する。

現状、線路側へ向けて完全に背を向け、都電との関わりを拒絶している形態を
見直し、線路と居住エリアとの間にオープンスペースを設け、そこに集合住宅の住人
と外部の人間(主に都電利用者)の双方が集まる環境づくりを行うことで、
都電と住居エリアとの隔たりを解消する。
それにより住人同士は勿論、住人对都電利用者や、都電利用者同士も集合住宅
の内外において様々なケースで交わり合う。
すなわち本計画は「人対人」の人間として最も基礎的だが、最も充実した都市体験を
誘発する装置となる。



Yukihiro Iizuka

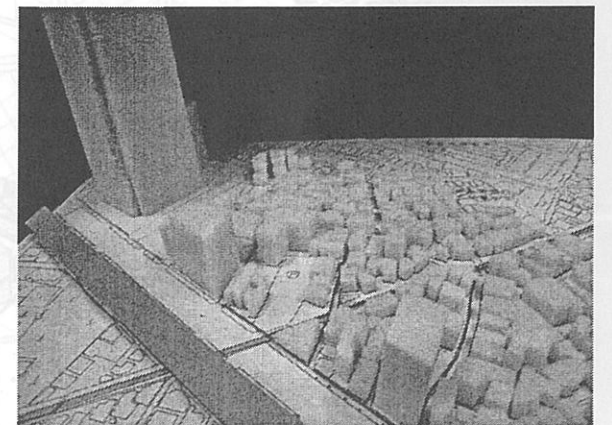


■ site

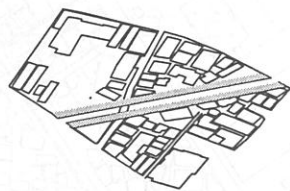
東京都豊島区東池袋四丁目～五丁目

当該敷地内に都電荒川線の東池袋四丁目駅があり、
更に池袋駅、有楽町線東池袋駅、そして様々な文化・商業施設に近接し、
交通条件や立地条件に恵まれている。
また東池袋には将来的にLRT(低床式路面電車)が
導入される計画があり、東池袋四丁目が接続駅となる予定である。

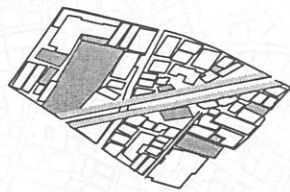
敷地内は現在、住居や小規模の小売店舗が混在した
木造密集地帯となっており、線路に対しては住戸が
完全に背を向けた状態で立ち並んでいる。
近隣の西側地区には平成19年に42階建ての住居棟と
15階建ての事務所・公共施設棟が建設されたばかりである。
また、さらに53階建ての高層住宅・業務複合ビルが
建設予定となっていたり、当該敷地内でも
再開発計画が始まりそうな様相も見受けられたりなどする。



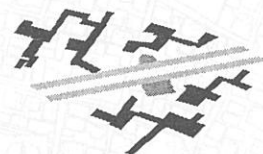
■diagram



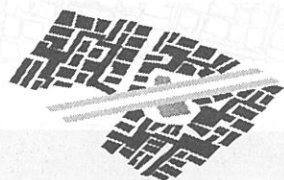
線路両脇に幅員4,000mmの歩行者道を設ける。



敷地内の駐車場、隙間、空地と、敷地中央部の線路に面する既存ボリューム部にvoidをつくる。



voidを線路方向、既存道路方向へと既存ボリューム部を辿りながら拡張させる。



既存ボリューム部を基に、voidの周囲に住戸を形成する。

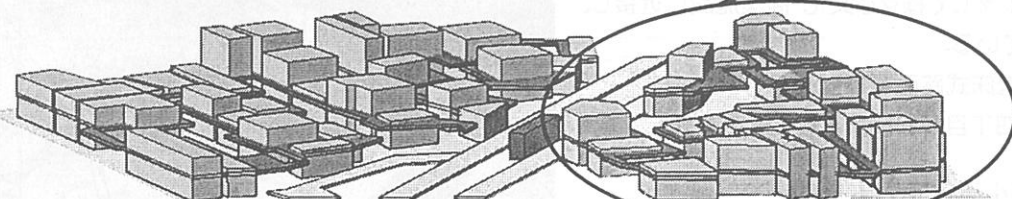
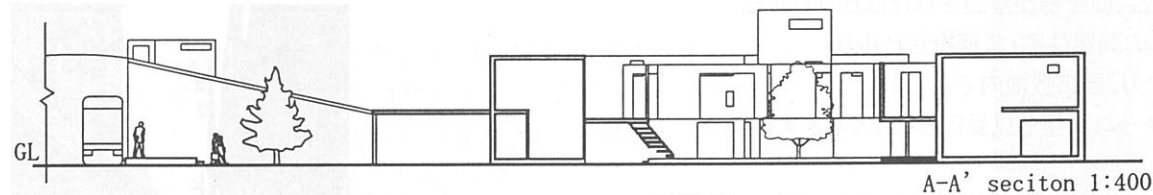
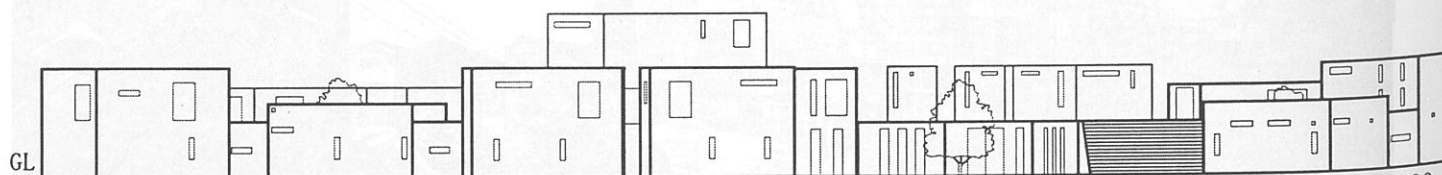


image perspective

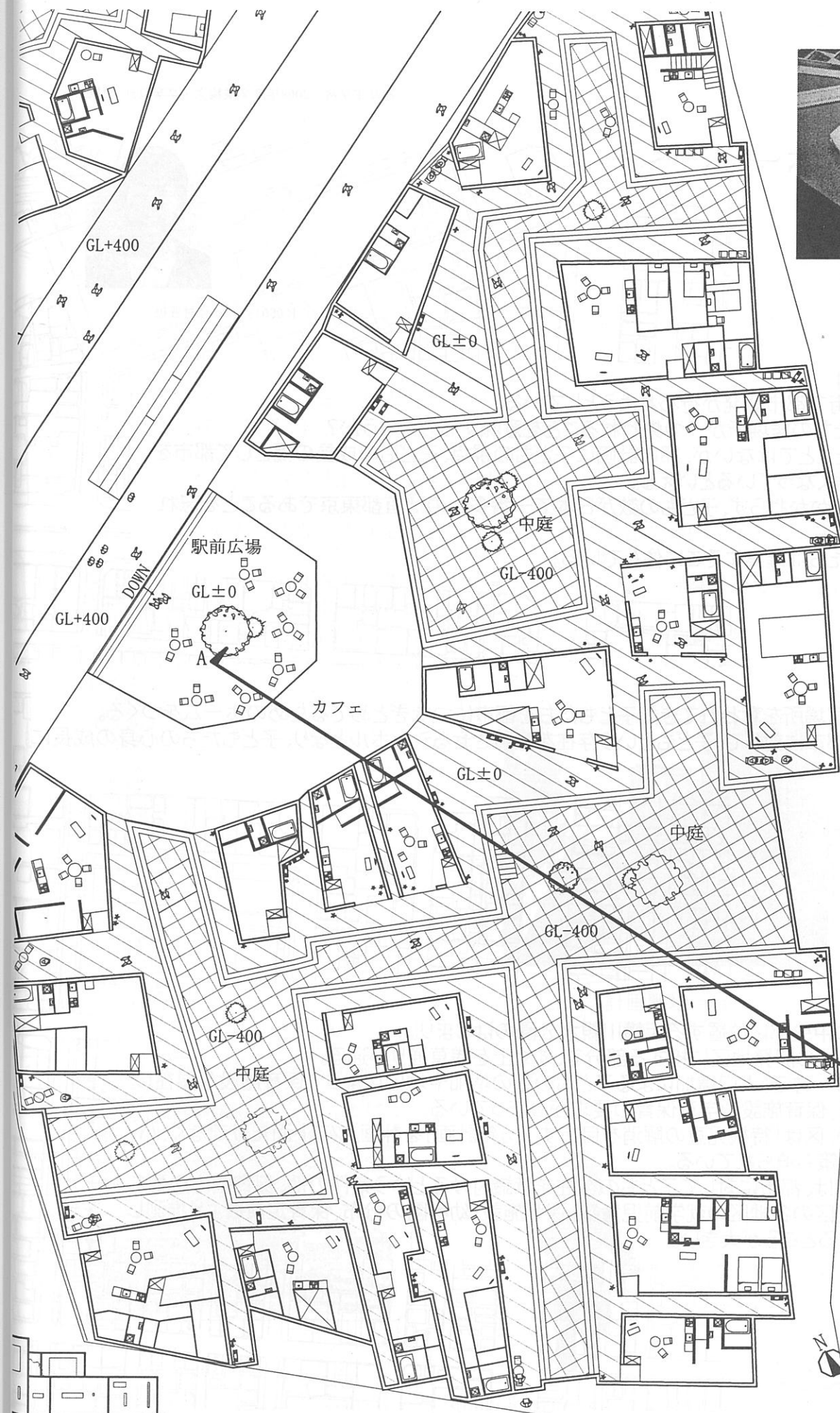
余白空間をスラブとして持ち上げる。



A-A' section 1:400



elevation 1:400



1st level plan 1:300

